日本産トゲツノノミバエ属について（双翅目、ノミバエ科）
林 利彦（国立予研・昆虫医科学）
The genus Conicera Meigen from Japan
Hayashi T.

トゲツノノミバエ属（Genus Conicera Meigen）は人類生活環境内でも見られる普通種を含む属である。本属は他の日本産の属と以下に区別される：R₂、₃脈が欠如；触角第3環節は雄で強く突出し、端部がその先端から生ずる；後胸節は基部に1対の剛毛を有し、短毛列（hair seam）はないと。日本からは金子（1961）がチビグロノミバリ Conicera breviciiliata Schmitzを記録している。これは現在 C. formosensis Bruesのシノニムとされている。笹川は日本ベストコントロール図説第11集において Conicera atra Meigen にトゲツノノミバエという和名を与え、家屋内に見られるとしている。この種も C. dauci (Meigen) のシノニムとされている。いずれの種も日本における情報は少ない。演者は日本産トゲツノノミバエ属について調べているので現在までに得られた知見を報告する。

日本産クロコバエ科ハエ類（双翅目）の分類
岩佐 光啓（帯広畜産大・昆虫）
Taxonomy of the Japanese Milichiidae (Diptera)
IWASA M.

クロコバエ科ハエ類（Family Milichiidae）は、小型で黒っぽく目立たないハエで、幼虫は一般に食性性または腐食性で、糞、堆肥、動物性質の腐敗物、鳥の果、アリの果などから発生することが多い。成虫は、花に集まるものが多く、中には捕食性昆虫と片利共生関係にあるものもある。本科のハエは、旧北区より50種、東洋区より38種が記載されているが、日本産の種については、福原（1965）が2属4種を記録して以来報告がない。演者は、昨年より日本産クロコバエ科の調査を開始し、4属（Milichiella属, Desmometopa属, Aldrichiomyza属, Phyllomyza属）12種を見い出した。Desmometopa属以外のものは同定が困難な種が多いが、本科の日本産の種について報告し、あわせて衛生上の重要種についても述べる。